

令和元年度第1回北海道地方競馬運営委員会議事録

日時：令和2年2月13日(木) 15:00～17:00
場所：TKP札幌ビッグセンター-赤いカ 前 5階 ランナー

1 開 会 (競馬事業室 森主幹)

2 あいさつ (農政部 小田原農政部長)

- 委員の皆様方には、大変お忙しい中ご出席頂いたことに感謝申し上げます。また、日頃から道政の推進、特にホッカイドウ競馬の運営にご理解とご協力を頂いていることに対して、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。本年度のホッカイドウ競馬については、昨年11月7日をもって80日間の全日程を無事終了し、平成6年以来25年ぶりに発売額が300億円を超えるなど、発売計画や前年度実績を大きく上回る結果となった。これもひとえに、委員の皆様をはじめとして馬産地やきゅう舎など関係者のご理解、ご協力、ご努力の賜であり、改めて感謝申し上げます。
- 本日の委員会は、令和元年度の開催結果及び令和2年度の取組概要についてご報告させていただくとともに、来年度より門別競馬場で実施することとなったビッグレース、「JBC2歳優駿」について説明させていただく。さらには、現行の「第2期北海道競馬推進プラン」については来年度が最終年となっており、来年度中に令和3年度以降を計画年とした次期プランを策定することから、その検討の方向性についてもご説明させていただく。ホッカイドウ競馬は近年、発売が堅調に推移しているものの、競馬開催に必要な馬の確保や老朽化が進む門別競馬場の基幹施設の更新など競馬事業を継続的・持続的に運営していく上での課題が山積。
- こうした中、わが国を代表する軽種馬生産地に位置するホッカイドウ競馬は、地域の経済や雇用を支える重要な役割を担っており、今後とも、産地をはじめ競馬関係者との連携を図りながら、競馬事業の安定的な経営に向けて最大限努力してまいりたい。最後になるが、本日はそれぞれのお立場で忌憚のない御意見や御提言をお願いし、挨拶とさせていただきます。

3 議 題

(1) 委員の紹介並びに委員長・副委員長の互選について

(森主幹)

- 委員長及び副委員長を選任したいと思うが、「北海道地方競馬運営委員会条例」第4条では、「委員長及び副委員長は、委員が互選した者をもって充てる。」と規定されていることから、皆さんからの御意見をお願い。

(浜近委員)

- これまでの経過なども踏まえ、委員長には引き続き平本委員、副委員長には、新任ではあるが北農中央会副会長の小野寺委員にお願いしたい。

(森主幹)

- その他に意見がなければ浜近委員の提案でよろしいか。(一同賛成)

(2) 令和元年度の開催結果及び令和2年度取組概要について

- 競馬事業室 安藤主幹より、資料1「令和元年度開催結果及び令和2年度取組概要」に基づき説明。

(川上委員)

- 令和2年でホッカイドウ競馬の推進プランが終わるということで、施設そのものが老朽化してきている部分の整備についてお願いしたい。

(田中室長)

- 川上委員からご指摘頂いたとおり、競馬場の施設については老朽化が進んでおり、まさに更新時期に来ているタイミング。令和3年度からの新しいプランの中にはホッカイドウ競馬の今後の方向性を計画するようなものの他に、「今必要な施設の整備をどのように実施していくべきなのか」というような整備の方向性なども年次別に具体的な項目を挙げて、必要な費用を試算しながらできるだけ具体的な計画にしたい。そういった方向で整備計画も併せて作っていきたいと考えているところ。

(川上委員)

- 課題となっている春先の出走頭数確保に係る補助が功を奏して、上手く番組編成ができていくということだが、さらに上乘せしながら集客していくような考え方ということではよろしいか。

(田中室長)

- ホッカイドウ競馬の特徴は、休催期間中にホッカイドウ競馬所属馬が他の競馬場に移籍をしていき、3月・4月にそれらの一部が戻ってくる場所であるが、その際の輸送費がネックとなり、なかなか北海道に戻ってこれない現状があった。そういった問題を解消するために輸送費補助を創設し、その効果が現れてきたと考えている。次年度以降も輸送費の事業は継続してやって参りたい。

(平本委員)

- 馬の輸送費は一頭につきどのくらいかかるものなのか。

(田中室長)

- 場所にもよるが、関東方面に一頭のみ輸送する場合は30万円ほど。

(平本委員)

- 2頭になればそれが分散される形になるのか。

(田中室長)

- そのとおり。

(浜近委員)

- 重賞日程等については、まだ発表できないのか。

(田中室長)

- これらの資料については、2月21日が知事の次年度予算の発表の日になるので、その日が道庁の各予算についての公表日ということになっている。

(浜近委員)

- 道営記念の日に道営スプリントを配置した意図はあるか。

(安藤主幹)

- 古馬の短距離戦がこれまで体系化されていなかったため、スプリント戦についても道営記念同様、閉幕日に最終決戦といった形に体系を変更した。

(佃参事)

- 短距離・長距離に関わらず、最後までホッカイドウ競馬に残って頂きたいといった形。

(浜近委員)

- JBC が山場になると思うが、2 歳戦のステップレース等についてファンにわかりやすくして、全国の皆様に知ってもらえるような PR をしてほしい。

(佃参事)

- これまで 2 歳戦については、他競走とは別に早めに番組を作成し、馬主に知ってもらう形。今年についても完成した段階で発表する形になる。

(田中室長)

- まさに JBC 2 歳優駿が新設競走として今年からスタートすることから、レースの体系を見直して配置し、ステップレースであることを明確にファンの皆様にお知らせして、楽しんでいただけるようにしていく。

(浜近委員)

- 全国の 2 歳重賞に優先出走権がついてくる形になるのか。

(田中室長)

- 現段階では、どのレースが JBC の優先出走となるかは明確には決まっていない状況。今後、他主催者と検討・協議していきたい。

(浜近委員)

- 今まで北海道 2 歳優駿には、他地域からの出走があまりいなかったので、JBC になったことを機に、他地区からも多く出走してもらいたい。

(田中室長)

- 2 歳戦は北海道にかなわないといったイメージがあり、他地区からの参戦が少ない。そのため、各地の代表が集まって 2 歳のチャンピオンを決めるといった位置づけのレースにしたい。

(佐藤委員)

- 競馬ファンとしては、7 頭以下の少頭数のレースは寂しい感じがする。中央競馬の在厩馬制度の改正や輸送費補助の他にどういった努力をされているのか。
- あるいは何頭以下だとレースは成立しなくなるのか。

(田中室長)

- 競馬法上の最低出走頭数は決まっているが、ホッカイドウ競馬は 8 枠フルゲートで組むことが一つの目安としている。

(佃参事)

- 特に認められた場合、7 頭立てで競走を行い、基本的にはホッカイドウ競馬は 8 頭立て以上という形になっている。

(佐々木委員)

- 門別競馬場のキャッシュレスシステムはプリペイドカードのようなものか。どういったシステムなのかお聞きしたい。

(田中室長)

- カードを発行し、その中にお金をチャージして馬券の購入・払い戻しを全てカードでやりとりできるシステム。

(佐々木委員)

- 現地でそのカードを買うということか。

(田中室長)

- 申し込み無料でやらせて頂いており、一日限りのカードと継続して使って頂けるカードの2種類がある。基本的には継続して利用できるカードを持って頂き、反復・継続して来ていただきたいと考えているところ。

(佐々木委員)

- 他の競馬場でも使用できるのか。

(田中室長)

- システム・サーバーの互換性が無いため、現段階では他の競馬場で使用できない。今後は日本中どこでも使えるようにしていきたい。

(石川委員)

- 新規の客に対しては競馬単体だけでなく、他の要素と結びつける事で全体としての魅力を高めていけたら良いと思う。とねっこの湯無料化は魅力的な要素。また、馬産地にある競馬場ということで、個人旅行においては乗馬、家族向けには馬とふれあえるような施設を作ること、競馬場に来て頂ける機会が増えるのではないか。

(平本委員)

- 一般の客が馬に乗る機会を作るのは比較的簡単に実現できそうなことなのか。

(田中室長)

- 不特定多数の人を乗せられる馬を持つ牧場は意外と少ない。競馬場近辺でそういった馬を持つ牧場は新冠付近にあるが、車で30~40分ほどかかる。競馬場で遊んだ後、乗馬するようなツアーを組むとすると少し日程がタイトになると思う。

(石川委員)

- 競馬場で2頭ほど馬を飼ってもらえないか。

(田中室長)

- ポニーと誘導馬があり、それらに触ることは可能。

(佃参事)

- 5月の連休時には、ポニーに乗馬できる催しを開催しているところ。

(田中室長)

- 常時、乗馬体験を行うのは難しい。

(平本委員)

- 少し移動しないと乗馬体験できないことを逆にとり、日帰りではなく一泊する観光プランを作るなど、リソースを開発していくことが観光には重要。競馬だけにとどまらず、日高地方の観光の振興には可能性がある。

(佐藤委員)

- インバウンドはある程度の乗馬経験がある方が多く、引き馬体験では満足しない傾向があるが、観光客向けにはリスクが大きい。魅力あるリソースで是非お願いしたいことではあるが、かなりハードルが高いと思う。

(平本委員)

- 今すぐという訳にはいかないと思うが、乗馬体験やホーストレッキングとの組み合わせによって、魅力が増すと思うので中期的な課題として検討して頂きたい。

(川上委員)

- 地元で競馬場を盛り上げるということで、レースに冠を付ける取り組みを管内 7 町に拡大できないか検討してほしい。

(平本委員)

- 昨年の来場者は、イベントや利便性の向上により過去最高を記録したが、売上の大半をネット販売が占めるのは構造上仕方の無いこと。一方で、競馬場にも足を運んで頂けるよう、今後も工夫が必要。

(3) JBC 2 歳優駿競走の実施について

- 競馬事業室 安藤主幹より、資料 2 「JBC 2 歳優駿競走の実施について」に基づき説明。

(浜近委員)

- JBC 競走の同日開催をするにあたり、対象 4 競走については具体的な検討は進んでいるのか。

(田中室長)

- 対象 4 競走については大井競馬と協議をしており、基本的には発走時間を調整して、あたかも自場で発売するかのように対象レースに集中して発売を行う。現段階で 2 歳優駿については、JBC 4 競走の 3 番目に実施する予定。寒い時期・祝日であることを勘案して、レース数や発走時間を調整し、皆様に楽しんで頂けるように配慮。

(浜近委員)

- 同日に開催予定のプロッサムカップはどの辺で実施する予定か。

(田中室長)

- JBC 競走が終わった後に最終レースとして実施予定。

(浜近委員)

- 有力な騎手は他 3 競走が実施される大井に流れると思うが、騎手の確保についてはどうするつもりか。

(田中室長)

- ビッグレースを共同で同時開催することが初めてなので、騎手や有力馬主の表彰等について調整中。

(浜近委員)

- 4,500 名来場した際に、駐車場は問題ないか。

(田中室長)

- 競馬場の駐車場だけでは対応が難しいため、むかわ町・日高町の駐車場をお借りし、シャトルバスでピストン輸送を行う予定。

(石川委員)

- JBC 競走を門別で開催できるようになった経緯を教えてください。

(田中室長)

- 本来、JBC2歳競走については他の3歳競走と同様に全国で持ち回り開催とすべきであったが、2歳馬資源については全国的に少ないため、最も2歳馬資源が豊富である北海道で当面の間実施することとなった。

(浜近委員)

- 本来、JBC競走は生産者のために作った競走であるから、北海道で全競走を行うべき。札幌競馬場などで開催できるのであればぜひ開催してほしい。

(田中室長)

- 札幌競馬場をお借りして、4歳競走全てを開催したい思いはある。将来的には実現させたい。

(4) 次期競馬推進プランに向けた検討方向について

- 競馬事業室 安藤主幹より、資料3「次期北海道競馬推進プランの策定に向けたスケジュール(イメージ)」、資料4「門別競馬場整備基礎調査に係る取組概要について」、資料5「これまでのホッカイドウ競馬で策定した計画と次期計画のイメージ」に基づき説明。

(小野寺委員)

- 今後、生産者にとっての馬生産がどうなっていくか危機感を持っている。馬産地の生産者の経営体が弱体化している現状があり、馬づくりに対して支援をお願い。

(田中室長)

- 競馬を運営していく上で、馬産振興が重要であるという認識は持っているところ。JRAと連携し、競走馬資源を確保に取り組むことで馬産地のセーフティネットとなるようにしたい。

(小野寺委員)

- 個人の生産者と大手との間に格差が広がっており、立ち行かなくなっている現状がある。今後、こういった課題について検討いただければ。

(小田原農政部長)

- 馬産振興については、北海道農業・農村振興推進計画の次期計画においても、農業の一つの形として位置づけて支援していきたい。

(浜近委員)

- 南関東競馬では生産者賞があると聞いているが、北海道ではどうなのか。生産者・馬主の意識が変わってきていると思うので検討してほしい。

(田中室長)

- 一部の重賞競走については、生産者賞は交付している。今年度のJBC競走については、当日の全競走に生産者賞を付与する方向で検討している。
賞金の高いところに馬が流れてしまうのは仕方がないこと。北海道としては賞金の値上げ競走では勝負できないため、賞金を少しずつ上げて、充実した調教環境などを含めて評価して、出走していただきたい。

(平山委員)

- 道営競馬の黒字については、どの程度基幹施設整備に投入するのか。また、道費や国費等、こういった財政の組み立てを考えているか。

(田中室長)

- 競馬場の基幹施設を全て更新した場合、最大で100億円程度かかる見込。現在、基金の積立が約30億円あり、今後も年間で5億円の積立を見込んでいる。この基金と地方競馬全国協会の施設整備事業等を活用して施設整備を行う。

(平本委員)

- 収益が黒字化し、設備にお金を投資する正当性があることから、現状に合った基幹設備のあり方を模索した上で、次期推進プラン期間中に施設整備をしてもらいたい。

(以上)